

# 駒場友の会

## 会報第六号



### 駒場に暮らす楽しみ

横山勝雄

金沢出身、工学部卒業の私が地方勤務と二度の海外勤務を経て帰国し、駒場の公務員宿舎に入居、その後散歩で見つけた駒場の小さな中古戸建に、家内、二人の娘と愛犬二匹(母娘)と暮らしている。渋谷・下北沢・代官山等人気スポットには自転車で行ける快適生活で、東大のほか高校七校、NTT研修所があり、通学・研修の人の波で活気がある。不便なのはスーパが無く、近隣に買出しとなり、帰路は重い荷物を持って坂道を登ること位。駒場エミナースのレストランは実質的だし、同ホールでは毎秋東大応援部の淡青祭がある。新参者の我が家だったが買い物や愛犬との散歩を通じ、近所付き合いや「駒場ワンワンパトロール」「駒場バラ会」等で知り合いも多くなってきた。

駒場一帯は江戸時代将軍の鷹狩場で、明治以降は広大な東大農学部があった由で、公園・キャンパス等が多く、緑のゾーンが多い。旧前田侯爵邸の「駒場公園」は、鬱蒼とした樹木と広い芝生広場、豪奢で風格ある西洋館、金沢兼六園の成莖閣に似た和館があり縁側で佇むのも一興。旧東京教育大学農学部跡地の「駒場野公園」は、テニスコート・体育館にプールや筑駒生徒が田植え・稲刈りする水田もあり、秋は駒場町会や住

区住民会議のお祭りや案山子コンクールも楽しい。ご老人方の朝のラジオ体操会場。二〇〇七年秋には隣接する旧郵政省研修所跡に「拡張公園」が出来る予定。

旧制一高があった「東大駒場キャンパス」は近隣住民の格好の散歩コース。冬の椿、早春の梅、春の桜、銀杏の緑と紅葉。冬の入試センター・東大入学試験時のサイレンの音、新入生を囲むサークルの勧誘の声や立看、運動サークルの練習風景と掛け声、秋深まるころの駒場祭の模擬店や演奏等季節ごとに楽しませてもらっている。リードをつけての犬の散歩もOKなのもうれしい。二〇〇四年オープンの方アカルティハウス内のレストラン「ルヴェンヴェール」「橄欖」では、長女の結婚式披露宴を挙げさせてもらったが、雰囲気も良く皆様にもお勧め。「駒場友の会」にも入会してコンサート、樹木の講演会や懇親会に参加し、諸先生や事務の方とも知り合えた。「会員」は図書館で本を借りられるのがうれしい。次女も友の会「会友」になって図書館利用を始めた。

我が家では三年前駒場町内にある「駒場バラ園」でつる薔薇スパニッシュビューティーの苗を買って玄關先に植え、翌年急速に伸び二階に達し、翌々年の昨春には数百輪のピンクの花が咲き、にわかバラ愛好家になった。その「駒場バラ園」は明治四十四年創業で九四年の歴史がある民間バラ園で、オーナーの入澤正義さん九五歳、嘉代さん八九歳で、井の頭線の電車から垣間見えるバラ園は毎朝の楽しみとなった。しかしこのバラ園が二〇〇五年末に大幅に縮小されることになり、駒場地区で何らかの形で残せないか、駒場公園や駒場野公園拡張公園にバラを移植できないかと、バラ愛好家や駒場町内有志が「駒場バラ会」設立準備中であると聞き、私も「駒場バラ会」に参加した。

「駒場バラ園」に伺った秋の日、当時検討中の仮植地に難しい点があるとのこと、当方「じゃ東大はどうですか」、入澤嘉代さん「東大なら有難い。何か伝

手ありませんか」という話が出て、その時は特に無かったが、丁度その頃の「駒場友の会」の懇親会でこうした事情を申し上げ東大の方と面識が出来た。その後バラ会役員と一緒に東大当局へお願いに行き、大学側でもご尽力頂ける事になった。昨年末に十七本のバラが入澤さんご夫妻から寄贈され、「駒場バラ会」や東大職員の手で、正門向かって右手のバレーボールコート脇の陽当り良い一角に移植出来た。思えばここ駒場での幸せな天の時、地の利、人の和であった。バラは他に駒場公園や駒場小学校にも贈られた。今回のことで駒場の住人と東大の繋がり、当方と駒場との繋がりも深まった。卒業生の皆さん是非駒場キャンパスと駒場の街の薔薇を見に来てください。

(47SI5D、一九七六年工学部資源開発工学科卒)

### 支離滅裂

戸塚哲也

私は教養学部基礎科学科の第四期生である。卒業研究は阿部龍蔵先生の御指導で、「フォトンとフォノンのインタラクシオン」の一端を嚙った。ところが、卒業すると量子力学とは全く無縁の広告会社に就職した。量子力学から広告へ転じた理由の第一は、自分の頭が悪いことを自覚したことである。私は阿部龍蔵先生に色々教えを受けている間に「世の中にこんなに頭の良い人間がいるものなのか」と心底驚いた。「量子力学」の授業でも、先生の講義は論理の建て方が流れるように美しく分かりやすく、うっとりとした。ところが、一步教室を出ると実は自分は何も理解していないことに気がつくのである。「あんなに、良く理解出来た、と思っていたのにこれはどうしたことだ」と不思議に思うのだが、これは授業中に阿部龍蔵先生の知の魔法の絨毯に乗せられていい気持ちになっていた

けであって、その絨毯から地面に下ろされて魔法が解けてしまえば私はただの魯鈍なる豚に過ぎないのである。この私が無謀にも卒業研究に阿部研を志願した。「フオトンとフオノンのインタラクシオン」という概念は面白かったし、我々初学者のために二次元格子を使つての近似的な議論だったので頭がついて行かないと言ふことはなかったが、阿部先生に接しているうちに、私はますます「これはだめだ」と思うようになった。阿部先生と私の頭とは人と猿ほどの差がある。私は物理学という物はこのように頭の良い人がするもので、私のように単に物理学に憧れを抱いているだけの人間の良くするものではないとはつきりと認識した。

駄目と分かると逃げ足の早いのが私の卑怯なところで、突然、物理学から広告屋に転じた。広告屋に転ずるに当たって、自分なりの深い野心があったのだが、それについては他のところで述べたので、省略するが、「卑俗統計人類学」なる新しい学を広告屋の仕事を通じてうち立てようと企んだのだ。

広告会社の業務と私のしたいことが一致する訳もなく、私は四年も保たずに広告会社を辞め漫画の原作を業とすることにした。広告会社から漫画原作に転進するのにも色々な事があつたが、省略する。

私はこの二十年以上『美味しんぼ』と言う漫画を描いているので雁屋哲という私の筆名をご存知の学友もおられるかも知れない。『美味しんぼ』は食べ物を中心に書いた漫画で、あの食べ物がいのみまじいの、と罰当たりなことを書き続けている。そんな私であるが駒場の「学食」と「寮食」にはずいぶんお世話になった。「学食」の「スコッチ・エッグ」と言う食べものは、ゆで卵の回りをつなぎの沢山入ったひき肉で包み油で揚げたもので、それにプラスチック製の容器に入った巨大なソース入れから、ソースをじゃぶじゃぶかけて食べる。いまだに、「スコッチ・エッグ」は私の中で絶対に二度と食べたくないものの中に分類されている。「寮

食」のカツ定食は人情のように薄い肉を機械油なのではないかと思われるすさまじいにおいの油で揚げたもので、思い返すだけで胸が悪くなる。では、と駅前の肉屋で定食を頼むとフランクフルトソーセージを丸ごとごろりと茹でたものにご飯とみそ汁がつく。文化というにはほど遠いものであつた。

私は『美味しんぼ』を書いていても、駒場の「学食」と「寮食」のことを忘れてはならぬと肝に銘じている。あれを食べたからには、小奇麗なことはかけないぞと思うのである。量子力学から、広告屋、更に漫画原作屋、と出鱈目を繰返した挙げ句、一九八八年にオーストラリアのシドニーに引越してしまった。ベランダに座つてシドニーの美しい海を眺めながら、駒場で過ごした数年間を考え、自分の過去を振り返ると、出て来る言葉は「支離滅裂」の一言だ。折角阿部龍蔵先生の教えを受ける機会を持つことが出来たのだから、悪い頭に鞭を打つてそのまま量子力学の勉強を続けていたら、と思うと胸に迫る物があるが、人生つてやり直しのきかないものですなあ。

(39 S II、一九六九年教養学部基礎科学科卒業)



卒業式の模様(平成18年3月24日)  
上:学位伝達式 / 下:九〇〇番講堂前で記念撮影

## 東大生の体力および

### スポーツ・体育について

小林寛道

若者にとってスポーツはおおきな関心事であるが、学校で身体を動かしてスポーツすることの機会はますます減少している。東京大学では入学してくる学生の体力テストを昭和五十五年以来同じ方法で毎年繰り返し実施してきているが、体力テスト成績は昭和六十年入学生をピークとして、平成に入ってから入学生の成績は低下の一途をたどっている。たとえば、ピーク時(昭和六十年)の男子の成績は、垂直とび六一センチ、反復横とび四九回、腕立て伏臥腕屈伸三四回であるが、近年では、垂直とび五七センチ、反復横とび四六回、腕立て二九回と低い水準になっている。女子学生では、ピーク時(昭和六十年)と近年の比較では、垂直とびが四四センチから三八センチに、反復横とびが四一回から三七回に、腕立て伏臥腕屈伸が一八回から一五回にそれぞれ低下している。こうした数字上の変化はたいしたことがないように思われがちだが、グラ



フに描いてみると激しい右肩下がりの傾向を示し、実際のテスト場面に立ち会ってみるとその有様が如実に感じられてくる。体育実技(旧名称)に相当するスポーツ・身体運動の授業では、一昔ならばなんでもない場面で大怪我や骨折をする学生が増加している。これもスポーツに必要な身体コントロール能力が未発達な状態にあるという要因が大きいのではないかと考えられる。運動不足はその後の健康状態にも大きく関係する。

高齢社会に向けて、運動を継続実施することが生活習慣病の予防や症状の軽減に有効であることが叫ばれているが、運動を継続実施できている中高齢者は三割弱である。糖尿病患者が七四〇万人、予備軍が八八〇万人、高血圧症が三一〇〇万人、予備軍が二〇〇万人、高脂血症三〇〇〇万人と発表されているが、運動することがこれらの疾患の予防や症状の軽減に有効であることは学問的に証明されている。厚生労働省は、「二に運動、二に栄養、しっかりと禁煙、最後に投薬」というキャンペーンを張って、国民の健康状態改善に力を入れている。しかし、運動する習慣をもたない人にとって、運動は面倒だし時間も無駄のように感じられてしまう。

スポーツ文化論というものが一時期唱えられたが、近年ではスポーツのもつ文化性を見直す動きも盛んになってきている。様々な分野で取り上げられた「身体論」は、身体を文化的な視点から見直し、再認識し

## 駒場友の会総会

日時 五月二〇日(土) 一六時三〇分より

場所 学際交流ホール(アドミニストレーション棟三階)

### 懇親会

日時 五月二〇日(土) 一八時より

場所 ファカルティハウス内セミナールーム

参加費 五千円

ようという時代を反映したものである。デカルトの心身二元論が近代科学の発展と共に受け入れられたことは異なり、近年に再認識されてきた「心身一如」ならぬ身体や運動(身のこなし)の見直しは、大げさに言えば第二のルネサンス時代の到来ということが出来る。このまま身体不活動の生活が進行していけば、人間自体の能力の低下が起り、減じていく方向性が明らかである。科学研究費を用いて全国の小、中、高の児童生徒一万人を調査した結果では、身体不活動は脳の活力低下を導き、意欲、気力、集中力、根気、の低下をもたらしていることが明らかになった。身体を動かさない文化の発展は、結局人間のもつ最高の脳の働きをも退化させてしまう。

日本の教育の中で、スポーツには必ずしも重要な位置づけが与えられなかった。これは近代化に向けた「学問」「文化」「精神」を何よりも優先する考え方によるものであった。また「科学」という概念に「体育」は直接結びつきにくかったということもある。身体教育という意味合いで名づけられた Physical Education は「体育」と翻訳されて、教育教科のなかに取り込まれたが、「身体を通じた教育が体育である」といった体育教育の枠組みを与えられてしまったことにおおきな問題があった。我々のように、運動やスポーツを研究対象とする者にとって、体育が教育の範疇のなかで取り扱われることには大いなる窮屈感を持ち続けている。駒場の身体運動科学は Science of Physical Exercise であり、必ずしも教育とは関連しないものである。サイエンスとしてのスポーツ科学も、実は駒場キャンパスから四〇年をかけて発信されてきた新しい学問なのである。身体運動科学やスポーツ科学の視点にたつて人間をとらえてみると、この分野の研究と教育のあり方がいかに重要であるかについて再認識させられる昨今の状況である。

(39) LIII 3B、この三月まで本学教授、四月より東京

大学院新領域創生科学研究科・客員教授、生涯スポーツ健康科学センター・名誉センター長)

## 駒場周辺

### 増田昭三

一九二七年に小田急が開通した翌年から代々木上原に住み、現在に至っている。今では上原町になつてしまったが、小田急の駅の名前に「代々木」が残っているのは嬉しい。駒場へは徒歩で通勤した。

お宮詣りは代々木八幡に行った。八百年の歴史をもつというが、現在の社地に移ったのは正保年間(十七世紀)だったらしい。現在の宮司の妹が平岩弓枝さんで、よく犬を連れて境内を散歩されているのを見かける。ここには、國學院大学が調査した縄文中期の遺跡があり、竪穴住宅が復元され、土器等が展示されている。

八幡様は、われわれの大切な祭祀センターである。中学、高校、大学の試験には祈願に行つて、お陰さまでぜんぶ成功した。娘たちのお宮詣りや七五三もここ

### 在校生のご父兄向け

## 木畑洋一学部長との懇談会

日時: 六月一〇日(土) 一〇時三〇分より

場所: 懇談会: 18号館ホール

懇親会: 18号館4階オープンスペース

会費: 二五〇〇円

懇談会の後にはキャンパスツアーを予定しております。定員70名。参加申し込みは、お名前、会員証番号、メールアドレス、電話番号を明記のうえファックスでお願い致します。申し込み数が定員に達しだい申し込みを打ち切らせて頂きます。Fax: 03-3465-3334

でやったし、孫も秋のお祭りにやってきて、ダボシヤツ、地下足袋すがたで大太鼓を引つ張った。上原、富谷、元代々木、西原など各地区から八幡様に集まってくるお神輿のにぎわいを、孫がじつと見守っている写真が残っている。

これは、筑波常治さんにかがったことだが、八幡神社の山手通りをへだてた反対側の丘陵に、明治天皇のお子さんである、筑波公爵の邸宅があったという。筑波公爵の名は子供のころなんべんも聞かされたが、そのお屋敷を実見した記憶はない。

代々木上原近辺には、華族と関係がある土地がかなりあった。いちばん有名なのは、前田侯爵邸であり、いまは駒場公園になっている。鉄扉の閉ざされた彼方にほの見えるそのお屋敷が、『小公子』に出てくるイギリスの貴族のお城のようなものであろうと子供ころに想像していたのだが、戦後開放されて中にはいつて見たところ、案外小さいので落胆した。それから松濤町にかけては鍋島侯爵の土地だったらしく、ごく一部が現在公園となっている。土佐の山内侯爵の邸宅も上原にあった。といっても、本当の御邸は参宮橋駅の近くの広大な面積を占めていたが、戦後の変動でそれは雲散霧消し、別宅が本宅となったのである。といっても千坪以上は優にある広い敷地だったが、最近相続税対策のためか、ここに大マンションが建てられた。

そのほか、華族と関係があったと考えられるのは、現在の西原三丁目から大山町にかけての高級住宅街(いまでは大分マンション化した)である。(ここは、青葉台の西郷山公園とやや似たおもむきの、だがそれよりずっと広い草原と森林地帯で、徳川山と呼ばれていたから、徳川一族の所有だったのかもしれない。われわれ子供たちは、「大山公園」と呼び習わしていたが、「公園」といっても、柵も門もない広大な空間である。まったくなんの規則も制限もなく、子供たちの遊び場になっていたのだから、いまでは考えられない

ぜいたくである。このわれわれにとつて大切な遊び場がなくなつたのは、日中戦争がはじまり、いわゆる軍事景気がおこつたころであった。ある朝、いつものように犬を連れて「大山公園」に散歩にでかけたら、その南縁の一角に十数人の労働者がはいつて、丘のふもとを切り崩しはじめていたのでたいへんなショックを受けた。その後、「大山公園」は、急速に高級住宅街に変貌していった。

もうひとつ記憶に残っている特異な場所は、上原の仲通りと呼ばれる商店街と、富合三丁目にはさまれた、上原二丁目の東半分にあたる地域である。つまり、上原と駒場の中間にある地帯である。これも鬱蒼たる森林地帯だった。ここは、「大山公園」とはちがつて自由に入りはできず、嚴重に柵で囲われていた。しかし、この謎の森は、上原小学校の児童たちの好奇心をそそるに十分であり、トム・ソーヤ気取りの探検隊が何組も繰り出されたが、その結果、森の中央に、一軒の本格的な西洋館が発見された。それは安普請の日本式西洋館ではなく、石とコンクリで造られた本格的な西洋館で、舞踏会でも開かれた場所のようだった。それがいつ、だれによつて造られたかは、まったくわからない。おどろいたことに、その西洋館は、宅地造成後そこに建てられた家の一部として利用され、現在でもむかし通りの姿が残っている。だから、駒場に行くとき前を通りかかるたびに、この家は何だったのかなあ、と首をかしげるのである。

(一九四七年文学部入学、一九五〇年同卒業、本学名誉教授)

### 編集後記

新学期の始まりにふさわしい充実した内容の会報をお届けします。駒場の裏門の向こうに森林があり、草原が広がっていたとは、洋服ダンスの裏を抜けて魔女

の支配するナルニア国に入り込むC・S・ルイスの小説世界のようなです。この四月、駒場寮跡にコミュニケーションプラザ北館がオープンし、キャンパスの風景もさらに変化しました。(文)

爽やかな緑に包まれてゆったりとくつろぐことのできる

## ルヴェソンヴェール駒場

駒場友の会会員・会友の皆様がお食事の際に注文なされたコーヒーは、支払いの際に会員会友証を提示下さいますと無料となります。

営業時間：11:00～14:30; 17:00～21:00  
Tel: 03-5790-5931 / Fax: 03-5790-1902

駒場ファカルティハウス内

### 駒場友の会会報 第六号

平成一八年四月二〇日発行

発行人 高橋 宗五

駒場友の会事務室

〒一五三―八九〇二 目黒区駒場三―八一

東京大学駒場ファカルティハウス内

電話 〇三―三四六七―三三三六

ファックス 〇三―三四六五―三三三四

メールアドレス

info-tomo@dm.c.u-tokyo.ac.jp

ホームページアドレス

http://www.komed.c.u-tokyo.ac.jp/ilovekomaba/